

声が裏返っても

言葉に詰まっても

セリフが飛んでも

かつこ悪く叫ぶあなたが

かつこいいと思った

キャベツ畑の中心で 妻に愛を叫ぶ

Vol.19

9.1
SUN

2024年9月1日(日) 11:22am 群馬県吾妻郡嬭恋村田代「愛妻の丘」

【主催】日本愛妻家協会・嬭恋村 【協力】(一社)嬭恋村観光協会

男が、ミエとテレとタテマエとセケンテーを手放すと、妻はとめどなく涙が溢れ出す!



標高1200m。広大なキャベツ畑の中のお立ち台で、男たちが愛を叫ぶ。題して「キャベチュー」。社会現象にもなった「夫婦環境倦怠感削減実験プログラム」として、多くの男たちの叫びが、奥様や彼女の心を射止めています。ふだんは、そんな素振りも一切見せないニヒルな男たちの愛の叫び。男がミエとテレとタテマエとセケンテーを手放すとき、なんでもない丘が、「愛妻家の聖地」として降臨する!

つまごい そもそも「嬌恋村」の 名の由来をご存知ですか?

日本書記によると1900年前に、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)は、この地で、弟橘姫(オトタチバナヒメ)という奥様の死を思いで叫んだ言葉が「あづまはや」と言われます。「あづまはや」を漢字で書くと「吾嬌者耶」。

つまり嬌恋村の「嬌」という字は、この吾嬌者耶(あづまはや)の文字から来ていて、これが「わがつま…」吾妻郡につながります。まさに、「わが妻を愛する村」なんです。

浅間山の雄姿に、広大なキャベツ畑。目の前の絶景が叫びを盛り上げます。

愛妻の丘は、嬌恋村の住民たちが心をこめてつくった広場です。「妻に愛を叫ぶ専用叫び台」もあります。植栽も施された美しい愛のホットスポットで、いまやドライブ名所でもあります。「つまごいパノラマラインの北ルート沿い」にある「愛妻の丘」の標識が目印です。

